小腸の機能障害の状況及び所見

|  |
| --- |
| 　身長　　　　cm　　体重　　　　kg　　体重減少率　　　　　　　％（観察期間　　　　　　　）　１　小腸切除の場合　(１)　手術所見：・切除小腸の部位　　　　　　　、長さ　　　　　cm　　　　　　　　・残存小腸の部位　　　　　　　、長さ　　　　　cm　　（手術施行医療機関名　　　　　　　　　　　　　　（できれば手術記録の写しを添付すること。））　　　　　　　(２)　小腸造影所見((１)が不明のとき)－(小腸造影の写しを添付すること。)　　　推定残存小腸の長さ、その他の所見２　小腸疾患の場合　　病変部位、範囲、その他の参考となる所見　（注）１及び２が併存する場合は、その旨を併記すること。　〔参考図示〕３　栄養維持の方法（該当項目に○をすること。）　①　中心静脈栄養法：　　　・開　　　始　　　日　　　　　　　　　　　　　年　　　月　　　日　　　・カテーテル留置部位　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・装　具　の　種　類　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・最近６箇月間の実施状況　　　　（最近６箇月間に　　　　日間）　　　・療法の連続性　　　　　　　　　（持　続　的　・　間　欠　的）　　　・熱　　　　　　　量　　　　　　（１日当たり　　　　　　kcal） |

|  |
| --- |
| 　②　経腸栄養法：　　　・開　　　始　　　日　　　　　　　　　　　年　　　月　　　日　　　　・カテーテル留置部位　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・最近６箇月の実施状況　　　　　（最近６箇月間に　　　　日間）　　　・療法の連続性　　　　　　　　　（持　続　的　・　間　欠　的）　　　・熱　　　　　　　量　　　　　　（１日当たり　　　　　　kcal）　③　経口摂取：　　　　・摂取の状態　　　　（普通食・軟食・流動食・低残渣食）　　　・摂　取　量　　　　（普通食・中等量・少量）４　便の性状：　（下痢・軟便・正常）、排便回数（１日　　回）５　検査所見（測定日　　　年　　　月　　　日）　　赤　血　球　数　　　　　　 ／㎜、血　色　素　量　　　　　ｇ／dl　　血清総蛋白濃度　　　　　 ｇ／dl、血清アルブミン濃度　　　ｇ／dl　　血清総コレステロール　　　　　 、中　性　脂　肪　　　　　mg／dl　　濃　　　　　度　　　　　 mg／dl、血清カリウム濃度　　　　mEq／ｌ　　血清ナトリウム濃度　　　mEq／ｌ、血清マグネシウム濃度　　mEq／ｌ　　血清クロール濃度　　　　mEq／ｌ　　血清カルシウム濃度　　　mEq／ｌ |

　注１　手術時の残存腸管の長さは、腸間膜付着部の距離をいう。

　　２　中心静脈栄養法及び経腸栄養法による１日当たり熱量は、１週間の平均値によるものとする。

　　３　「経腸栄養法」とは、経管により成分栄養を与える方法をいう。

　　４　小腸切除（身体障害者福祉法施行規則（昭和25年厚生省令第15号）別表第５号に

規定する身体障害者障害程度等級表１級又は３級に該当する大量切除の場合を除く。）又は小腸疾患による小腸機能障害の障害程度については、再認定を要する。

　　５　障害認定の時期は、小腸大量切除の場合は手術時をもつて行うものとし、それ以外の小腸機能障害の場合は６月の観察期間を経て行うものとする。